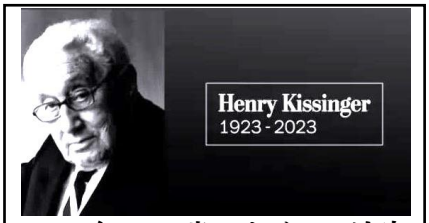
2024 年 11 月 1 日 N0.196

# 中国業務通訊

## 在日中国人にとり日本は理想の国か？



**1938年に15歳でナチスの迫害を逃れて米国に亡命した。**

米国のフランクリン・D・ルーズベルト大統領は１９４１年１月６ 日の一般教書演説で「４つの自由」を提唱した。１９３９年９月１日にドイツがポーランドに侵入し２次世界大戦がはじまったが、米国は中立をたもっていた。１９４１年１２月８日に日本が真珠湾攻撃をして米国と開戦したことで、日本、ドイツ、イタリアは三国同盟を結んでいたので、米国はドイツ、イタリアとも戦争状態に入った。この演説の裏にはヨーロッパ各国に軍事侵入し、支配権を広げていたドナチス・イツが念頭にあった。

４つの自由は「言論・表現の自由（***Freedom of speech***)」、「信教の自由（***Freedom of worship)***」、「欠乏からの自由（***Freedom from want)***」、「恐怖からの自由（***Freedom from fear***）」だ。

人々は豊かさ、自由を求めて移動する。

豊かさを求めて。いまＥＵ諸国はアフリカ、中近東などからの難民の流入に悩まされている。ドイツのメルケル政権は２０１５年にシリアなどの難民１００万人を受け入れた。英国にはインド、アフリカなど旧植民地からの移民、フランスにはアフリカなど旧植民地からの移民が続く。中南米のスペインの旧植民地国の若者のスペインへの移住は国内の引っ越しの感覚だ。ベルギーの首都・ブラッセルではアフリカの旧植民地ザイール（旧コンゴ）からの移民などベルギー生まれでない住民が過半数を超えている。

２０２０年の米国国勢調査の結果、ヒスパニック（中南米系）を除く白人（アングロサクソン系）の全人口に占める割合が５７・８％となり、初めて６割を切った。２０４２年には米国の白人比率が５０％を割るだろうと予測されている。ヒスパニック、黒人、アジア系の人々の出生率が高いこととメキシコ経由の中南米からの不法移民と世界からの難民、移民の流入などによるだろう。米国の豊かさと自由が世界の人々を引き寄せるのだ。***American dream*** を求めて。

自由を求めて。政治的理由による国外への移動は亡命という。人々は自由の無い国から有る国に向かう。亡命は共産主義国・社会主義国から資本主義国・自由主義国に人が流れる。社会主義国から社会主義国に亡命しても何ら意味はないだろう。社会主義国の北朝鮮から自由主義国の韓国に亡命する人はいるが、逆の韓国から北朝鮮に亡命する人はいない。ロシア、中国の人々の亡命先は欧米だ。自由を求める人々を最も受け入れた国は米国だ。日本は彼らの亡命先の選択肢にはいっていない。日本政府には人権という思想が無いからだ。「外国人を焼いて食おうが、煮て食おうが自由だ」（１９６５年　法務官僚の言葉）

いま在留カード及び特別永住者証明書上に表記され日本に住む中国人は約７９万人（２０２３年法務省統計）だ。在日中国人のうち１９７８年の改革開放以前から住んでいる中国人を老華僑、改革開放後に日本に移り住んだ中国人を新華僑という。長崎、神戸、横浜の中華街を作った老華僑は１９８０年に5万人台だった。新華僑が急激に増えたのは１９８０年以降だ。いまの７９万人の在日中国人のうち７０万人以上は新華僑だろう。

新華僑の彼（彼女）らは肉体労働者から知識人まで幅が広い。私が付き合っている在日中国人は中国の一流大学を出て、日本に留学、その後に日本で就職した人たちだ。起業したオーナー、日本企業の社員、大学の教師などなど日本社会で高収入層に属する。日本人男性と結婚した中国人女性も多い。中国でも日本でもエリートと言えるだろう。

そして、私は多くの彼らと微信((wechat)でつながっている。彼らは毎日、日本の様子を微信の

書き込みに発信している。これらの記事は中国にいる身内、友人に日本での生活の実態を伝えるのが目的だろうと思う。彼らは日本が大好きで、日本での豊かな生活を享受しているように見える。在日中国人は自由意思で、自らの選択で日本に生活の場を移したのだから、去った、捨てた中国よりも日本が理想の国であってほしいと思いたいのだろう。

日本に住んでも中国人同士の付き合い、情報交換は活発だ。日本の県人会に相当する団体、組織が同郷会を作っている。同郷会は省単位と北京、天津、上海の市単位にある。また在日中国人は大学ごとに日本の同窓会に相当する組織、団体の校友会を作っている。彼らは同郷会と校友会でつながり、助け合う。在日中国人組織に全中全日本華僑華人社団連合会（賀乃和会長）、日本中華總商会（蕭敬如会長）、全本華僑華人聯合総会（陳隆進会長）、日本華僑華人婦女連合会（李建平会長）など在日中国人の親睦、交流団体があり、中国人の日本社会での ***presence*** は高く、影響力があるだろう。

**今年2月、学士会館で開かれた北京大学日本校友会新年会。彼らは中国で豊かな生活が保証されていると思うが。**

在日中国人は日本に住んで祖国の中国政府を批判することはしない。日本にいても中国政府を支持しているように振る舞い、装うことが生活の知恵なのだ。日本国籍を取り、中国政府の手の届かないところに身を置き、中国政府を批判する在日中国人がいるが、彼らの意見に説得力はない。

中国を去り他国に移るのであれば、政治体制、政治制度が中国と対局にある国を選ぶだろう。中国には自由と民主主義が無い、欧米には自由と民主主義が有る。中国と体制、制度が対局にある国は欧米なのだ。しかし、欧米は中国人に門戸を開放してない。彼らの第１希望の欧米は入国審査が厳しいので、第２希望　第３希望で日本を移住先に選んだのだ。

１９９７年7月１日に中国への港返還が実現した。多くの香港人は中国への返還、帰属を望んでいなかった。香港を統治していた英国は香港人に BRITISH　PASSPORT を発給していたが、このパスポートは英国での無条件居住が認められなかった。返還前の香港人は自分と家族の生命と財産を守るために、もう一つのパスポート、国籍取得に奔走していた。香港返還前に、香港人は BRITISH PASSPORT ともう一つのパスポートをいつも携えていた。彼らの第１希望の移住先（欲しいパスポート）は米国と英国だが、両国が香港人の移住に厳しい制限をくわえていたので、第２希望の移住先であるカナダとオーストラリアに流れた。英語圏の国が理想の移住先だ。

英国に生まれ米国に帰化した作家・ジェームズ・クラベル（James Clavell、１９２４～１９９４）は１９８８年に小説”Noble House”を書いた。返還前の香港が最も輝き、繁栄していた時代を描いた小説だ。いまの香港には返還前の自由と繁栄はない。香港返還後、中国大陸から香港に大量の人が移住したが、中国大陸外から香港に移住した人は少ないだろう。

日本では急速に、言論の自由、思想の自由が失われている。いずれ日本も言論の自由、思想の自由のない社会主義と同じ国家体制になるだろう。

日本に言論の自由、思想の自由がなくなり、排外主義が蔓延したら、在日中国人にとり日本は住みにくい国になるだろう。言論、思想の制限、弾圧は日本国民だけではなく外国人にも及ぶだろう。自民党政権がいま外国人に移住を歓迎しているのは彼らに利用価値が有るからで、利用価値がなくなったら、一転して外国人排斥、外国人迫害に向かうだろう。

自民党政権の中国敵視政策に中国政府は過度な反応せず、目くじらを立てず。長く続いた自民党の治世でこの国の政治は腐敗し、経済は衰退し、社会は劣化してしまった。中国政府は日本が自ら崩壊するのを待っているのだろう。

日本を移住の地に選んだ在日中国人の選択は正しかったのだろうか。豊かな国に向かう中国ら衰退しつつある日本国に移住を選択した誤り。自由の無い中国から自由を失いつつある日本国に移住を選択した誤り。彼らは移住先に日本を選んだのをいずれ後悔することになるだろうと思う。（横井幸夫　元東レ株式会社）